

2021年度 障害児者一時預かり「サポートハウスわにの家」事業報告

1. 幼児小学生の活動（第2ハウス）

☆ 新型コロナウイルス感染症大流行の中で

わにの家が障がいのある幼児と小学生のための支援を始めてから19年が経過しました。

2021年度のわにの家の運営は、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の爆発的流行による活動制限の状態が続き閉塞感の強い1年間となりました。

(1) 活動自粛(不要不急の外出規制)の影響

4月から幼稚園、保育園、学校等は制限を設けながらも新学期のスタートを切りました。しかし、新型コロナウイルス感染症は学齢期の子どもたちの間にじわじわと拡がり始め、感染源不明の発症があちこちでみられました。学校や放課後活動の場で誰かが発症すると周りの人は濃厚接触者となり自宅待機扱いによるキャンセルも多数ありました。そしてついに、わにの家でも1月23日(金曜日)の利用者から陽性患者が発生し、スタッフの濃厚接触者全員の陰性が判明するまで一週間休業することになりました。1月は正月休みもあり、元々開室日は少ないのですが多大な影響がありました。同じ金曜日に利用したお子さん7名とスタッフ8名のうち新たな発症者が1名で済んだことは幸いでしたが、マスクの着用が難しい子どもが多い施設の感染防止の難しさを実感しました。その後、スタッフにも感染者は出ましたが濃厚接触者はいなかったため休業はしませんでした。利用控えの状況は3月末まで続きました。

事業所の減収対策として利用者宅に電話し様子を聞くだけで利用者にもカウントしてもよいという指導もありましたが、わにの家では実際に利用した人のみ利用者として計上しました。

スタッフは感染予防対策としてわにの家の消毒や換気、使った物の消毒に努めたほか、全員第3回目の予防接種を終えました。しかし、本人や家族の意向で感染を避けるため活動を控えているスタッフもいる状況は続きました。

(2) 活動の縮小

わにの家では、利用者一人に対して指導員を一人配置しているため、本人の気持ちや活動の意欲とご家庭の希望を照らし合わせて作成した利用計画に沿って、公共の交通機関を利用し、少し遠くの公園やログハウスなどに出掛ける等多彩な活動を展開していました。しかし、公共交通機関の利用自粛と多くの施設の閉館や利用制限が設けられたことと相まって、昨年度同様、活動は大幅に縮小せざるを得ませんでした。また、夏の活動のメインであったリハビリテーションセンターのプールも全面改装のため閉鎖され、はだしの広場の流水も中止になりました。主な活動場所としては、平和公園や等々力公園がほとんどで、長時間利用の日は感染予防対策をしながら公用車で三ツ池公園、太尾見晴らしの丘公園に出掛けるなど新しい活動場所の開拓を行いました。夏は家の前にビニールプールを出して暑さをしのぎました。小学生の夏休みも長時間の密集を避けるために、例年行っていた、夏休み中の特別日課「平日の長時間預かり」も回数を削減しました。活動場所がわにの家周辺に限定されたことで、屋外活動の中心はみんなで平和公園を利用することが増え、何人かの子どもたちで野球やサッカーなどのグループ活動らしいことが出来るようになりました。また室内で過ごす時間も増え、トランプをしたりレゴブロックでお互いの意見を取り入れて共同制作をするような場面など思いがけない成長も見られました。

幼児さんの利用は平日午前週2日各1名の利用があり、若干開室日が増え、保護者との連携を密に取りながら支援しました。活動場所は室内遊びと近くの公園なので活動場所自粛の影響もなく元気に過ごしました。日々変わっていく子どもたちの成長に指導員は沢山のパワーをもらいました。



(3) 保護者との交流

「保護者会」や家族参加の「わにっこフェスタ」なども、一緒に子育てする大切な場でしたが、多人数の集まりの制限、学校施設の開放中止などで、大きい行事は中止せざるを得ませんでした。お迎えで会ったときや個別に相談されたときには時間を設けて相談に応じました。また、毎月発行の「わにっこ通信」で、閉塞生活の中でのご家庭の取り組み等をたくさん紹介し、繋がりを保つようにしました。

(☆ 2021年度の実績)

<登録メンバー（3月末・含成人）>

☆幼児8名 ☆小学生38名 ☆中学生1名 ☆高校生1名 計48名

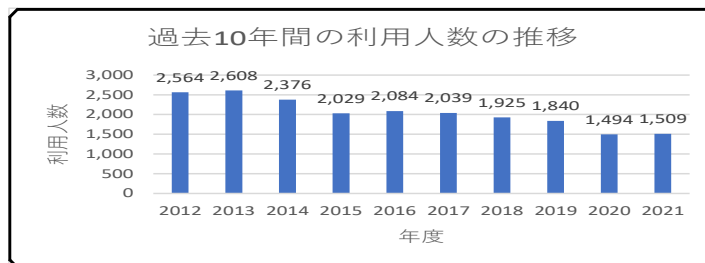
在住区内訳	幸 区	中原区	高津区	合 計
	4	39	5	48

<利用者数>

利用者延人数 2021年度 1,509名 (2020年度比 331名減)

* 利用者は年々減少しているが、今回の激減は新型コロナウイルス感染者の発症による事業所休業や利用控えの影響が大きい。

<参考資料>



<日常の活動内容>

☆幼児（10時～12時30分）

月・火・水・金と月2回の土曜日
<ul style="list-style-type: none"> ・10時～ 室内での自由遊び ・11時～ 散歩や近隣の公園 ・12時20分 みんなでおかえりの会 (手遊び・本の読み聞かせ等) <p>*土曜日は幼児のみの利用日。弁当持参。 活動終了13時30分。</p>

☆小学生（放課後～17時）

月～金曜日（火曜日～18時）
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後～16時 自由外遊び 等々力公園・平和公園・多摩川台公園・橋公園等 16時～ おやつと室内遊び ・16時45分～ おかえりの会 (活動の報告と帰りの歌など)

☆ 休日活動

月2～3回行っている休日活動は、わにの家開室以来維持し好評です。放課後の活動時間は短いので思い切った活動や遠出は難しいのですが、休日はゆったり活動ができます。今年度は新型コロナ感染症予防のため、公園での昼食はできず、新規の太尾見晴らしの丘公園・三ツ池公園など少し遠出をしても昼食はわにの家に帰って感染症予防対策をしながらとるなどの工夫が必要でした。ご家族の負担軽減や他のきょうだいと関わる時間の確保、また利用者本人にとっても、月2回の楽しく安全な活動体験の場として大切にしていきたいと思えます。

☆ 年間の主な行事

・保護者会	・避難訓練	・わにっこフェスタ	・卒業のお祝いボウリング大会
-------	-------	-----------	----------------

予定していた上記の行事は、新型コロナ感染症流行のため今年度も実施出来ませんでした。

<卒業を祝う会>

わにの家はスペースの関係で原則小学生までと利用制限を設けています。

今年度の卒業生は7名でした。みなさん幼児からの長いご利用なので、せめて一緒の行事をと思い、感染症対策がしっかりしているカワスイ川崎水族館に行き、その後わにの家で保護者の方にも参加して頂きお祝いの会を開催しました。指導員が心を込めて作ったアルバムを渡すことが出来ました。お子さん本人のお別れの挨拶もとても素敵でした。カワスイ川崎水族館は、わにの家のお子さんにとっては暗さと狭さで快適とは言えなかったようです。

<スタッフの体制>

登録15名（内 ・青年担当1名、環境整備担当1名、事務専任1名）

* ほぼ一週間継続で勤務している指導員**4名。その他は曜日限定で勤務。

* 研修の充実

2021年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため一堂に会して研修を行うことが出来ませんでした。その分活動開始前や日常活動終了後、清掃をしながら日々の活動の振り返りをしています。活動で担当した児童にヒットしたかわり方、注意すべき事柄などを記入し個別ファイルに挟み全員に伝えるようにしました。お迎えの保護者と指導員の情報交換も貴重な研修の機会でした。

* 待遇改善**毎年、最賃法により時給を改定しているほか、対応により配慮を要する児童を担当している指導員には加算をつける等若干の待遇改善を図っています。利用児童の減少に伴う収入減にもかかわらず、指導員は子どもに触れ合う喜びを糧に仕事を続けてくれています。指導員の生活保障が難しいわにの家ですが、今年度も指導員の熱意に支えられて温かい雰囲気の中で無事一年間が過ぎました。

<2022年度に向けて>

2020年2月頃から始まった新型コロナウイルス感染症の流行はやや下火になりそうな状況です。しかし、6年生の卒業、予防的に登録していた利用者の整理等を行った結果、2022年度のスタートは利用者が8名ほど少なくなり、さらに6年生9名も中学からを見越して他の放課後等デイサービスの利用回数を増やすなどで、わにの家の総利用数の減少が続くことが予想されます。

一年間の経緯を見ながら事業の継続について再考しようという声もある中、支援スタッフの声を聞きながら、子どもたちの生活の充実に向け楽しい企画を考えていきたいと思えます。

2. 成人の活動（第1ハウス1階）

2021年度は成人の日常活動利用の希望はありませんでした。年度始めから通学支援を利用して隔日で登校することができるようになった高校生の本人の要望で、障害児者一時預かりの活動として学習支援を始めました。2ヶ月間、週1回午前中だけの活動でしたが、この体験を通して年度末には毎日登校ができるようになりました。休日は月1回でもわにの家に来たいという要望もあるので、本人の社会的自立に向け応援していきたいと思えます。また、過去にわにの家を利用していただお子さんについて、家族の冠婚葬祭参加のため緊急に対応するという事もありました。

<2022年度に向けて>

わになろう会発足当初の理念の通り、地域の障害のある方の緊急な要望に対して制度の運用範囲で応じる体制は維持していきたいと考えています。2021年度対応を始めた高校生については、今後も休日、祝日等に本人の要望に応じて支援を続けます。